

第2回新・富山県ものづくり産業未来戦略会議の論点と主な意見の概要

論点 1 : とやま成長産業創造プロジェクトの推進

(1)ヘルスケア分野への参入

- 健康な人のデータを長期的にとって、それを活用していく発想が必要である。
- ヘルスケア分野は世界的にも、今後大きな市場となっていく。他県との競争にもなることから、富山県の特徴を活かすことが重要である。
- データをどのように活用するかによって大きなビジネスへ展開できる。
- ヘルスケアは可能性のある分野であり、介護・医療などの現場の声を聞くことが重要である。
- ヘルスケア分野の商品開発にあたって、デザインは重要な要素である。

論点 2 : 分野横断的なイノベーション手法による新たな付加価値や新事業の創出

(1) オープンイノベーションの推進

①コンソーシアムの取組みについて

- 「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムは最初のプラットフォームづくりが重要である。
- 「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムにおいて産学官の連携を進めていくためには、必要な予算と人材が不可欠である。
- 技術やノウハウをどこまでオープンにできるかは、業界・分野によって異なる。できるところを参加企業・機関で見つけていくことが必要である。

②産学官連携のあり方、推進体制について

- 産学官連携にあたって、大学と企業が包括協定を締結することがあるが、この場合は、協定の内容を徹底的に詰めることが大切である。
- 金融機関は企業から技術を活かした製品開発などの相談を受けており、大学と企業を結びつけるためには、金融機関の役割が大きい。
- 新しいプロジェクトを立ち上げるため、産業支援機関などが、従来のコーディネータとしての役割から踏み込んで、ディテクターとしてプロジェクト引っ張っていくことが必要である。
- 隣接異業種のネットワークの構築は大事であるが、そうした業種の情報が乏しく、技術データベースや、企業同士を結びつけるコーディネート的な支援があればありがたい。

- 中小企業は知的財産管理の支援がなければ、オープンイノベーションに取り組むことは難しい。

③デザイン思考について

- デザイン思考を普及することは、オープンイノベーションの取組みにつながる。
- デザイナーは仮説を立てプロダクトを作ることに長けており、そうした思考を新商品開発に応用していけばよい。

(2) コネクティッド富山の推進

- 中小企業からのIoTの専門的な相談窓口の設置や、専門家の企業派遣などIoT導入と人材育成の取組みを充実していくことが重要である。
- IoT導入のためには、経営サイドと現場サイドが共通認識を持つことができるよう、現場サイドと一緒に価値を作り出す役割を担う人材が必要である。
- 各社がIoT導入し、企業間連携をしながら、付加価値の高い新製品、さらに周辺のソフト的なものを含めたコトづくりを目指せばよい。
- 異業種をつないで、新しい価値を生み出すという視点が重要である。

(3) デザインによる高付加価値化

- デザインセンターの機能強化を図ることが重要で、デザイン交流会の開催や首都圏での情報発信を行っていくべきである。

(4) 新たなプロジェクトを生み出すための推進会議

- オープンイノベーションを推進するためには、テーマを選択、生み出すことが重要であり、新たに設置する推進会議に富山県独自のものを生み出す仕組みが組み込まれるとよい。

論点3：ものづくり人材の育成・確保

- 企業の研究等に学生の力を活用するなど地方大学と地元企業が連携できれば、地元就職につながるよいきっかけになる。